

島嶼研究の未来へ向けて

架橋する国際若手研究2022

琉球大学島嶼地域科学研究所（RIIS）では、島嶼地域をテーマとする若手研究者の研究成果を広く共有するために国際研究大会を開催します。多様な学問的バックグラウンドを持つ皆様のご参加を歓迎します。

第1部：基調講演（10：10～11：40）

「沖縄のブルー・クラーク —農家経済調査簿の沈黙—

講師 ウェンディ・マツムラ 先生

（カリフォルニア大学サンディエゴ校・准教授 歴史学）



この講演（およびプロジェクト）のタイトルは、ディオヌ・ブランドのThe Blue Clerk: Ars Poetica in 59 Versos (2018)から示唆を受けている。彼女の作品によって、私は戦前期沖縄の農家に関する公文書にアプローチする方法を根本的に見直すことになった。ここでは、私が「農家経済調査」と呼ばれる一連の記録について解釈する際にブランドの作品がもたらしてくれるものとともに、その状況依存性のために、黒人ディアスポラ研究の長い知的作業の系譜のなかでみたときに見落とされるものが何かを検討したい。続いて、これらの資料のなかにつかの間に現れる人々の生を理解するため、主に歴史叙述が提供できる（できない）ものに焦点を当て、私が取り組もうとする沖縄研究の具体的な問題を提示したい。

※使用言語：日本語

第2部：若手研究者による研究報告

セッションA（12：40～14：20） 島嶼のアクチュアリティ

セッションB（14：30～16：10） 島嶼をめぐる多分野からのアプローチ

日時：2022年1月23日（日）10：00～16：20（日本時間）

開催方法：Zoomウェビナー ※参加費無料、事前登録必須

参加申し込みフォーム：<https://forms.gle/7CfC6EHebtS3vSny9>

※右のQRコードからもご登録いただけます。

申し込み締切は2022年1月16日（日）17：00（日本時間）です。



お問い合わせは、大会組織委員会まで

mail: riis.wakatewebinar@gmail.com（担当：RIISポスドク研究員 土井智義、古波藏契）

本レクチャーは、「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」、文部科学省概算要求プロジェクトの一環として開催されます。

島嶼研究の未来へ向けて:架橋する国際若手研究 2022

2022年1月23日(日) | 10:00 ~ 16:20(日本時間)

プログラム

【開会の挨拶】10:00~10:10

波多野 想(琉球大学島嶼地域科学研究所 所長)

【基調講演】10:10~11:40 言語:日本語(英語への通訳はありません)

ウェンディ・マツムラ先生 (カリフォルニア大学サンディエゴ校・准教授 歴史学)

「沖縄のブルー・クラーク —農家経済調査簿の沈黙」

【個別報告】12:40~16:10 言語:日本語(英語への通訳はありません)

セッション A (12:40~14:20) 島嶼のアクチュアリティ

司会:古波藏契(琉球大学島嶼地域科学研究所・ポスドク研究員)

系数 温子(一橋大学大学院社会学研究科)

「沖縄における子どもの貧困対策 —行政による財政支援と市民活動の連関について—」

座間味 希呼(大阪大学大学院文学研究科)

「1950年代後半の沖縄島北部地域開発にみる軍用地接收、移住、環境破壊」

岡本 花恵(琉球大学大学院保健学研究科)

「アジア・太平洋島嶼国の新型コロナウイルス感染症の学校の対応とその課題」

セッション B (14:30~16:10) 島嶼をめぐる多分野からのアプローチ

司会:土井智義(琉球大学島嶼地域科学研究所・ポスドク研究員)

藤本 秀平(琉球大学人文社会科学研究所)

「沖縄の「混血児」をめぐる教育と権利—霜多正次『明けもどろ』から読み解く「復帰」

翁長 志保子(琉球大学人文社会科学研究所)

「山里禎子「ソウル・トリップ」論—新自由主義における自己決定の不可能性への問い—」

下岡 絵里奈(トゥールーズ ジョン・ジョレス大学外国語学部)

「琉仏協定前文を比較する—琉仏間の認識相違に関する一考察—」

【閉会の挨拶】16:10~16:20

宜野座 綾乃(琉球大学島嶼地域科学研究所 准教授)

琉球大学 島嶼地域科学研究所

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地 【Tel】 (098) 895-8475 【Fax】 (098)895-8308

大会実行委員会 【E-mail】 riis.wakatwebinar@gmail.com 【URL】 <http://riis.akr.u-ryukyu.ac.jp>